

令和 5 年度第 3 回おうめ観光戦略策定懇談会会議録（概要）

- 1 日時 令和 6 年 1 月 1 5 日（月）午後 2 時 0 0 分～ 3 時 5 0 分
 - 2 場所 青梅市役所 3 階教育委員会会議室
 - 3 出席委員
千葉委員（会長） 小澤委員（副会長）、靱矢委員、本橋（大）委員、
嶋田委員、北村委員、村上委員、本橋（あ）委員、横澤委員、小島委
員、金井委員、越前委員
 - 4 欠席委員 0 名
 - 5 傍聴 1 名
 - 6 議題
 - (1) 第 2 回おうめ観光戦略策定懇談会結果報告について
 - (2) おうめ観光戦略 2024-2028（素案）について
- （配布資料）
- 資料 1 - 1 令和 5 年度第 2 回おうめ観光戦略策定懇談会会議録（概要）
- 資料 1 - 2 第 2 回懇談会意見まとめ
- 資料 2 おうめ観光戦略 2 0 2 4 - 2 0 2 8（素案）
- 参考資料 青梅市市民観光アンケート調査（速報）

発言者	会議のてん末・概要
会長	(開会) 1 あいさつ 会長あいさつ
事務局	2 議題 (1) 第2回おうめ観光戦略策定懇談会結果報告について (第2回おうめ観光戦略策定懇談会結果報告について、資料1-1、1-2を用いて説明)
会長	意見等、ご発言をお願いします。 <意見・発言なし> それでは、次の議事に進めます。
事務局	(2) おうめ観光戦略2024-2028(素案)について (おうめ観光戦略2024-2028(素案)について、資料2、参考資料を用いて説明)
会長	ご意見があればお願いします。
越前委員	20ページの4の2、施策1の「観光資源を掛け合わせたコンテンツの開発」と施策2の「新たな観光資源の発掘」について考えました。情報発信の重要性について、地域に受け継がれる伝統行事などが、まだ十分に知られていないと感じています。これらを積極的に発信することで、特定の分野に特化した人々が訪れ、地域を巡る文化が広がると思います。例えば、最近では御朱印集めがブームになっていますが、青梅の七福神巡りのような情報だけでなく、他の神社や寺院

	<p>にも御朱印があるという情報も発信する価値があると思います。また、青梅市のマンホールカードのように、新たな観光資源としての可能性も考えられます。塩船観音寺のツツジなど、既に知られている観光資源以外にも、新しい情報発信の方法を模索することで、リピーターを増やし、地域の魅力を広めることができると考えます。例えば、私が住んでいる吉野梅郷の下山八幡神社の竹灯籠など、まだ知られていない地域の行事や魅力を発信することで、訪れる人々に新たな発見を提供し、地域との触れ合いを深める機会を作ることが大事だと思います。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。お住まいの方ならではのご意見だと感じました。こちらに対して、何かご意見ありますか。</p>
小澤委員	<p>例えば梅郷にはガイドブックに載っていない滝があるなど、青梅にはまだあまり知られていない魅力的な場所がたくさんあります。四国八十八か所霊場も同様で、訪れた人は驚くことが多いです。しかし、これらの地域は団体の観光バスのルートには含まれておらず、訪れる人も少ないのが現状です。本当はもっと多くの観光バスに来ていただきたいのですが、訪問先としての知名度が低い上に、食事をする場所も限られているため、観光バスが減少しています。かつては食事を提供する場所も多かったのですが、現在は亀の井ホテルくらいしか残っていない状況です。さらに、コロナ禍により、旅館が宴会を受けない、新たな慣習が生まれてしまっています。このような状況を改善し、青梅や奥多摩を訪れる人々に快適な体験を提供するためにも、観光バスが訪れやすい環境を整備することが必要です。また、マイナーな観</p>

	光地でもしっかりとガイドし、PRすることで、個人の観光客だけでなく団体旅行者にも青梅の魅力を伝えられればと思います。
越前委員	ガイドブックに掲載されなくとも観光協会のホームページやSNSで情報発信できれば集客につながると思います。
小澤委員	下山八幡神社もほとんど知られていません。
越前委員	パンフレットが作成されましたが、「これはどこのことなの？」という感じがしました。初めてそのパンフレットを見たとき、どの地域のことを指しているのかが分からないという印象を受けました。また、この前、澤井の薬師様を訪れる機会がありましたが、そこは本当に素晴らしかったです。私が今年初めて訪問した際、その場所に座っているととてもほっこりとした感じがしました。
小澤委員	塩船観音寺は有名で、誰もが知っているし、ガイドブックにも掲載されています。しかし、澤井の薬師様はあまり知られていませんが、訪れてみるととても面白い場所であることが分かります。
越前委員	軍畑から沢井まで歩き、山の方を進んでいくと、緩やかな斜面が広がっています。そこでは柚子がたくさん実っており、とても良い感じですが、一目見ただけで、「本当に来て良かった」と感じられるような場所です。
小澤委員	最近、ロゲイニングが流行してきています。普段行かないよ

	うな場所を、自分たちで地図とコンパスを頼りに回るアクティビティです。ロゲイニングにはかなりの人が参加してくれています。
越前委員	そういう方に向けた情報発信が必要ということです。
会長	そのほか皆様から、ご意見をいただきたいと思います。
金井委員	<p>関連して、基本戦略の第1項目と第4項目に触れたいと思います。歴史的な芸術文化は、豊富な資源を有していると思います。20ページの4の2の下の部分に、地域の民芸や伝統食文化の調査が記載されていますが、このような調査や、異なる資源の掛け合わせについて、新しく建設される市民ホール内に芸術センターを設置することで、芸能をアーカイブ化し、可視化し、参加者を募るようなアクションを行うことは、多くの地域の芸術センターで実施されています。アーティスト・イン・レジデンスを通じて、アーティストが地域資源の豊富な場所に滞在し、作品を作成したり、調査を行うことも、さまざまな地域で行われている活動です。これらは、前回の意見まとめにもあるように、地域課題や伝統芸能の継続に関わることだと思います。</p> <p>さらに、長期滞在に関する参加プログラムや、地域資源の可視化、地域課題の解決を目指す体験型プログラムなど、アートプログラムを通じた様々なアクションを組むことは、全国で行われていると思います。現在、市民ホールの建設が進んでいると思いますが、その一環として観光の側から資源を可視化するための提案をすることもできるのではないかと思います。具体的に観光資源に直接つながるかどうかは一旦置いておいて、可視化を進めることで、参加の仕方が</p>

	<p>明確になり、地域にアウトリーチする機会も広がるでしょう。</p> <p>このアクションの拠点として、観光の視点から何か意見を出せないかと考えています。また、美術館の改装についても、ただの変更ではなく、地域のシンボリックな存在、ランドマークとなるような方向性を考えてはどうでしょうか。</p> <p>地域の木材など、地元の素材を使用し、観光の視点からアピールするための場として機能させると良いと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>少し早めに大枠に関するお話をいたします。</p> <p>まず、基本戦略についてですが、16 ページ目を拝見したところ、非常に良いと感じました。コンセプトの「サステナブル」やターゲットの「インバウンド」、重点を置く「プロモーション」と「高付加価値化」については、青梅市の観光戦略を説明する上で、非常にわかりやすく示されていると考えます。このシンプルさこそが戦略の鍵だと思います。</p> <p>さらに、この戦略が数値目標と密接に連携しているべきだと考えています。特に、1人当たりの観光消費額の増加は、現在の円安の影響を考慮すると、基準値よりも5%以上の増加を目指すべきだと思います。また、高付加価値化を目指すことは、滞在型観光の推進を意味しており、結果として宿泊者数の大幅な増加が必要です。</p> <p>来訪者数に関しては、2019年の水準に戻すだけでなく、国が設定した目標に沿って、より挑戦的な目標を設定すべきだと思います。国は2030年までに来訪者数を150%増加させることを目標としています。青梅市も、サステナブルツーリズムを目指し、世界の持続可能な観光地100選に申請</p>

する計画ですから、少なくとも同じ割合で来訪者数を増やすことが大事だと考えます。

確かに、さまざまな意見があると思います。しかし、日本全体や世界全体のトレンドを考慮すると、青梅市も高い目標を設定しなければ、他の地域に後れを取る可能性があるという認識を共有したいと思います。観光客満足度と市民のおすすめ度に関しては、基本戦略で力を入れるべきとされているプロモーションの重要性を踏まえ、来訪者の満足度を上げるよりも、青梅市の認知度を高めることがより重要なKPIとなるべきだと考えます。市民が青梅市のサステナブルツーリズムに関する取り組みを知っている割合や、青梅市が観光地であると認知している人の割合を指標として設定することが適切だと思います。

また、施策の方向性についても、4つの基本戦略ごとに設定された方向性にもとづいて、予算化や取り組みを進めていく必要があります。すべての方向性に均等に力を入れるのではなく、選択と集中を行い、特に力を入れるべき施策を明確にすることが重要です。私自身が事業者として関わっている観点からも、持続可能な観光地づくり、特に国際認証の取得や青梅市が世界の持続可能な観光地100選に選ばれることは、強烈なメッセージを発信することになり、最優先で取り組むべき課題だと思います。たとえば、市長がロビー活動を行ったり、海外の観光エキスポに出展するなど、積極的にアピールすることが求められます。

第二の基本戦略として、インバウンド対応人材の育成に注力すべきだというご意見は、大変重要だと思います。外国からのお客様が多い現状、特に私たちのような山梨県で運営しているホテルでは、英語を話せるスタッフの存在が重要であり、これが来訪者を引き寄せる要因になっていると実

	<p>感しています。この点を強化することは、青梅市の観光戦略においても中心的な役割を果たすべきだと思います。</p> <p>第三の基本戦略に関しては、やはりプロモーション、すなわち情報発信に力を入れるべきだという点に同意します。ツアーリズム EXPO への出展や海外での積極的な営業活動など、青梅市の魅力を国内外に伝えるための取り組みが重要です。このような活動を通じて、より多くの人々に青梅市を知ってもらおうことが、観光客の増加に直結すると考えられます。</p> <p>最後の基本戦略については、私自身が宿泊施設を運営している立場から、施設の改修や整備よりも、青梅市での1泊2日や2泊3日の滞在の仕方を提案することの方が重要だと感じています。日帰り旅行では体験できない魅力を伝えることで、訪問者に青梅市での長期滞在を促し、結果的に宿泊数を増やすことができると考えます。このような長期滞在の魅力を積極的に発信することで、青梅市の観光業をさらに発展させることができると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>非常に貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>総括しますと、まずこの全体の構成シンプルで説明しやすいということそして、重要なのが15ページのこの目標数値で為替の影響や政府が示している数値に沿うのがよいのではないか。また方向性、等々についてもご意見をいただきました。皆様の中から何か他にご意見ございますか。</p>
<p>北村委員</p>	<p>今の議論で、特に私自身がカナダ出身で、長く日本に住んでいるという経験を踏まえた上で、青梅を外国人の視点から見た場合、東京、京都、大阪などの有名な場所は知られていますが、青梅のような場所はあまり知られていないと感じ</p>

	<p>ます。ただこれは日本人がよく知っている九州と同じ程度です。インバウンドにおいては、どのように情報を発信するかによって、興味を持ってもらえるかが変わってくると思います。例えば、日光のように世界遺産がなくても、面白いものがあれば、それを発信していくことが大切です。たとえ小さいものでも面白いものがあるという点を、積極的に発信することで、より多くの人々の認知度を上げることが重要だと考えます。</p> <p>また、OmeBlue ストーリーなど、特有のストーリーを作り、それを海外の人々にできるだけ多く発信することが必要です。これは海外メディアを通じて、またはトレードショーやアドベンチャートラベルショーなどにブースを出展することで行うことができます。そうすることで、青梅の魅力をどのように世界に伝えたいか、どの点を知ってもらいたいかを明確にし、それを広めていくことが必要だと思います。</p> <p>しかし、実際に訪問者が来た場合、インフラが整っていないと、せっかくのPRが台無しになってしまいます。そのため、インフラ整備、特に交通手段や宿泊施設の整備は、PRと同時進行で行うことが非常に大切です。</p> <p>さらに、青梅市だけではなく、近隣の奥多摩などと連携し、地域全体として魅力的なコンテンツを提供することも重要です。外国から来た観光客は通常、1週間以上の滞在が多いため、青梅と奥多摩を含む広い範囲で楽しめるプランを提供することが求められます。これにより、長期滞在の推進にもつながります。このように、横串での取り組みとして、青梅線を含む地域全体でのアプローチが必要だと考えます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>他に皆様からご意見をお願いいたします。”</p>

横澤委員	<p>観光戦略について話し合いましたが、施策の具体化の程度についてはまだ確定していない部分もあると思います。</p> <p>しかし、例えば「いつまでに誰が何を行うか」という形で施策をもう少し明確にすると、現実味が出てくると思います。また、推進体制や役割分担に関しても、具体的に「いつまでにどのように構築するか」を定めることで、より現実的な計画になると考えます。</p> <p>さらに、事業者の役割分担に関しては、現在、主に観光事業者に限定されているように思われると感じます。しかし、ファクトリーツーリズムの例を考えると、農業や製造業者も事業者として含められるため幅を持たせることが必要です。たとえば、ホットマンさんの工場見学やプラムさんのチョコレートの製造の見学、小澤酒造の見学なども観光の魅力を増す要素となり得ます。事業者の範囲を広げることで、より豊かな観光体験を提供できるのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>スケジュール工程表が必要ではないかというご意見と事業者の幅を広げるというご意見をいただきました。</p> <p>他にまだご発言されていない方お願いいたします。</p>
本橋(あ)委員	<p>15ページの数値目標について初めて見たとき、嶋田委員も指摘されていたように、非常に謙虚な目標だと感じました。特に観光消費額に関しては、600円程度という数値について、もっと積極的な数値を目指すべきではないかと思います。これは事業者としての観点からも、より高い目標値を設定し、その達成に向けた取り組みを市に期待しています。</p> <p>しかし、私は青梅市の市民としても生活しており、地域住民</p>

	<p>の観点から考えると、例えば鎌倉のように観光弊害が問題になっている地域のように青梅市になるか、そして市民がそこまでの観光地化を望んでいるかについては考えなければいけません。宿泊客を増やしたいという事業者としての願望もある一方で、宿泊者数の目標を令和10年度に向けてもう少し高く設定してほしいとは思っていますが、この部分についてのバランスの取り方が重要だと考えています。</p> <p>目標値の設定に当たっては、そのバランスをどのように取るか、そして目標値との整合性をどのように取るかが問題です。市は具体的にどのような点に力を入れるべきか、横澤委員がおっしゃったように、宿泊施設だけが増えても、宿泊後の飲食やアクティビティが充実していなければ、観光消費額は上がらないと思います。そのため、宿泊客が宿泊することで地域全体が動くように、食事や訪問先、コンテンツの提供など、広域的な動きを促すためにはどうすればよいか、その点についても考えを深めていただきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。非常におっしゃる通り、その宿泊者数延べ数というところも、目標値については再考する必要があるのかもしれませんが。他にありますか。</p>
<p>本橋(大)委員</p>	<p>施策について、私も見せていただきましたが、嶋田さんもおっしゃっていたように、施策の強弱についてはもう少し明確にしていただければと思います。</p> <p>12月に岩蔵で実施した個人対象のモニターツアーについてお話ししますと、日本画の鑑賞、地元食材の提供、岩蔵温泉での宿泊、座禅体験といったコンテンツを用意しました。参加されたのは20代から40代の女性約7人で、皆さんからは高い満足度の声をいただきました。特に青梅の自然や風</p>

	<p>景に対する好評価をいただきましたが、情報の収集源はほとんどがInstagramからでした。このことから、美しい風景の写真や動画を通じて、情報発信の重要性と人材対応の必要性を感じました。</p> <p>また、現在日本の多くの観光地がコモディティ化している中で、青梅がどのようにして選ばれるかについて考えたところ、体験や美しい景色だけでなく、歴史をもっとPRすることが大切ではないかと思います。青梅を俯瞰してみると、御嶽山の山岳信仰、吉野梅郷の梅、青梅宿の青梅縞や夜具地、塩船の三田氏の繋がり、岩蔵のわらじなど、各地域には豊富な歴史があります。これらの歴史をストーリーとして発信することで、単なる自然景観の観光地ではなく、外国人観光客も興味を持つような内容になるのではないかと思います。また、前回の議論でもありましたが、地域の歴史を結びつける取組も良いと思います。</p>
越前委員	<p>今、岩蔵で行われたツアーについてのお話を伺いましたが、私自身もツアーを企画している中で、青梅の街中でも様々なガイドツアーが行われていると思いますが、これらのツアーがどのように情報を発信し、繋がっていくのか、ということを考えます。せっかく良いツアーを実施しても、それが一回限りで終わってしまうのはもったいないと思います。</p> <p>私は、これまでの経験を積み重ね、来た人が自由に活用できるようにすることが大切だと考えています。つまり、単発のイベントではなく、それらを繋げて一つの流れを作り、それをさらに広げていくことが重要だと思います。そうすることで、青梅での体験が一層豊かなものになり、それぞれのツアーやイベントが連携し合うことができるのではないかと思います。今回のご意見を伺って、そう思いました。</p>

<p>会長</p>	<p>2人ありがとうございました。</p> <p>モニターツアーのお話と越前委員の方からはそれらを持続的に繋げていければというご意見でした。</p>
<p>北村委員</p>	<p>モニターツアーについて、12月に伊勢神宮周辺の熊野古道で開催されたものに参加した際、歴史の説明と体験とのつながりの大切さを感じました。しかし、英語で説明ができ、かつ日本の歴史に精通している人が少ないという問題があります。誰がこの役割を担うのかという問題があります。英語を話せることはもちろん、日本の歴史についても知識が必要です。そのため、適切な人材の育成が非常に重要になります。</p> <p>そして、育成した後、その人材が継続的に関わることで点から線へと繋がっていく必要があります。熊野古道では、田辺の観光協会がこのようなグループを形成し、10年以上かけて人材を育ててきました。青梅でも、情報と知識を持った人材が英語で情報を発信できるようになり、それを形にしていく長期的な取り組みが必要だと思います。そうすることで、訪れる人が一回限りの体験に終わらないように、多くの人が情報を伝える体制を整えることが大切です。</p>
<p>会長</p>	<p>貴重な意見ありがとうございます。</p> <p>24年度から28年度ということで、やはり工程、人材育成に時間がかかりますから、そこの辺りのスケジュールが必要になってくるのかなという意見ですね。ありがとうございました。</p> <p>他にございますでしょうか。</p> <p>時間が残り少なくなりました。またご発言されていない方おられましたら、いかがでしょうか。</p>

村上委員	<p>インバウンドに関するお話がありましたが、現状の実態がまだ十分に把握できていないようです。特に御岳 I C 周辺の情報については理解していますが、基本戦略 2 での状況把握や環境整備が重点的に行われていると感じます。しかし、プロモーションや海外への情報発信についてもしっかりと記載し、海外に広く発信していくことの重要性を強調する必要があると思います。具体的な動向が明らかになった際には、海外市場を広くカバーするのではなく、特定の国に焦点を絞って取り組むことになると思います。そのため、インバウンド向けのプロモーションの具体的な計画を明記することが望ましいと考えました。</p>
小澤委員	<p>J R さんからのお話がありましたが、一駅一事業について、以前の市長さんが推進していました。この取組を復活させるか、または既に行っているところでは継続的に進めるとよいと思います。特に青梅線の青梅から西にある駅、例えば鳩ノ巣、古里、軍畑、二俣尾など、それぞれの駅がどのような名前の由来を持っているのか、どのような歴史やストーリーがあるのか、聞くと非常に興味深いと思います。もし今も継続して行われている場合は、それについての具体的な内容に取り組んでいただけるとありがたいです。</p>
会長	<p>ありがとうございます。他にございますか。</p>
越前委員	<p>10 ページの代表的な観光資源についての記載にありますが、青梅市吉川英治記念館が民間から青梅市の管理に変わりました。私はよく、「青梅の観光は記念館から」と言っていますが、実際に記念館で活動しているガイドの方からデ</p>

	<p>一タをいただき、その内容についてお話しします。訪れる人々の割合は青梅市、多摩、東京それぞれが約 20%で、インバウンド客はほとんど訪れていないそうです。訪問者の大部分は 70 代の高齢者で、吉川英治のファンが多いようですが、記念館では様々なイベントを月ごとに実施しており、これが若年層や 20 代の女性を引きつけているようです。特に、ゲームとコラボしたイベントでは、大阪からの訪問された方もいたそうです。また、吉野街道沿いに位置するため、「ここは何だろう？」と思って訪れる人もいるそうです。ガイドの会長さんは、「イベントがなければ人は来ない」とおっしゃっていました。記念館ではさまざまなイベントを継続的に行っており、訪問者の関心を引きつけています。かつての訪問者数は 16 万人にも上りましたが、現在はその半分にも満たない状況です。私自身も、青梅の観光は記念館から始まると思っており、記念館のさらなる活動を応援しています。</p>
小澤委員	<p>ちょっとお話をさせていただきます。記念館については、青梅市が購入した際、初めて内覧したときに、非常に面白い施設が多くあることに驚きました。実は、我々が観光でチケットを購入して見る部分は、施設全体のごく一部に過ぎません。特に興味深いのは、お弟子さんが住み込みで使用していた建物で、その生活の跡が見られる寝床などがあります。なぜこれらの部分を公開しないのか疑問に思っています。もしガイドさんが同行して、定められた時間に全ての部分を案内してくれるなら、30 分程度の見学コースになるのではないかと思います。これらの魅力的な場所をもっと開放することで、訪れる人々に新たな体験を提供できると考えています。</p>

越前委員	門だけでも七つあります。
小澤委員	私たちがチケットを購入して入る部分は、実際には施設全体のごく一部にすぎないと思います。今度体制が変わったので、以前は一般に公開されていなかった部分も見ることができるようになればいいと思います。
会長	小島委員からお話しどうでしょうか。
小島委員	<p>最初に、民俗芸能、特に獅子舞について話されたと思います。市内には多くの獅子舞がありますが、実際に獅子舞を行っている方々がこれを観光の一環とは考えていないと思います。そのため、獅子舞を観光として人々に紹介したいのであれば、もっとPRする必要があります。</p> <p>獅子舞の関係者は、その継続が最優先で、担い手の減少など様々な問題に直面しています。しかし、例えば沢井の獅子舞は、カメラマンの間で非常に知られています。明日はこの獅子舞といった情報があるので、それを観光としてもっとPRすべきだと考えます。現在は博物館がその活動を主に管轄しており、広報にも掲載されますが、それは文化財や歴史の観点からであり、観光としては十分ではありません。もう少し観光課と連携して取り組むべきではないでしょうか。</p> <p>また、獅子舞同士の交流がありませんでしたが、地域の獅子舞関係者が集まって問題を共有し、継続的に活動を続ける方法について話し合う場ができてきています。観光の観点から、ただ話し合っているだけでは民俗芸能への興味を引き出すことはできないと思います。</p>
会長	ありがとうございます。委員いかがでしょうか。

<p>靱矢委員</p>	<p>皆さんがおっしゃった内容を踏まえて、基本戦略を見直す必要があると感じています。おそらく皆さんも思ったと思いますが、現在の基本戦略は三方よしというコンセプトに統一されています。</p> <p>全体的に見て、このアプローチには賛同する部分もありますが、個々の意見を聞くと、より具体的な問題点が明らかになり、收拾がつかなくなる部分もあると感じていますが、特に、全体的なインパクトが弱いという点が気になりました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>おそらく皆さんはまだ話足りないと感じているかと思います。しかし、今日は向こう5年間の観光戦略について話し合いました。DMOやDMCを設立した場合、宿泊施設、伝統芸能、ガイド案内などの部分が拡充されるかと思いますが、いかがでしょうか。今のご意見は事務局でも議事録に取っていただいていますので、これを反映していくばくかの修正が加えられるかと思います。皆様、このような形でよろしいでしょうか。また、目標数値などについて、事務局の方から何かご意見はございますか。ぜひお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>今日は様々なご意見をいただき、ありがとうございました。特に目標設定に関しては、会長を始め多くの方々からのご意見がありましたので、大きく見直し、インパクトのあるものにしていかなければならないと思います。その他の点についても、多くのご意見をいただきましたので、これらを踏まえて、私たちとしては大幅な修正を加えたいと思います。青梅市の場合、計画策定にはパブリックコメントを経る必要がありますので、今後提出される資料は、今日いただいた</p>

	<p>ご意見を反映したものになると思いますが、大きく変わる可能性があります。しかし、これは皆様の意見を踏まえた修正であることをご理解いただき、事務局にお任せいただければ幸いです。いずれにせよ、本日いただいたご意見をもとに修正を行う予定です。</p>
会長	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>皆様の方からは異議なしということでもよろしかったでしょうか。</p> <p><異議なし></p> <p>ありがとうございます。</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>(次回日程 3月19日(火))</p>